



吉川市立東中学校 学校だより

あじさい

<https://www.yoshikawa.ed.jp/higashi-jh>

令和8年3月号

全校生徒数 290名

〒342-0017

住所：吉川市上笹塚 3-104-1

TEL：048-982-0244



可能性への挑戦 ～スキージャンプ「高梨沙羅選手」から学ぶこと～

吉川市立東中学校長 伊東 猛

いよいよ令和7年度の締めくくりの3月を迎え、まとめの時期となりました。生徒たちは、この1年間で様々なことを学習し、心も体も大きく成長することができました。3年生はいよいよ義務教育9年間で締めくくる卒業式を、1・2年生は一年間を締めくくる修了式を迎えます。ともに次の学校、次の学年の新しいスタートに向けて、有終の美を飾ってほしいと思います。

さて、先日閉幕したミラノ・コルティナ冬季五輪では、多くのアスリートが私たちに感動を与えてくれました。今回のオリンピックで特に私の心に深く刻まれたのは、スキージャンプ女子・高梨沙羅選手の姿でした。

高梨選手にとって、今回のオリンピックは特別な意味を持っていました。4年前の北京大会の「混合団体」で、1回目見事なジャンプを飛びながら、スーツの規定違反とされて失格。1回目の記録は消えることとなり、それが影響してチームは4位。「金メダル」と期待されていたのにも関わらず、表彰台に届かずに終わってしまったのです。雪の上に泣き崩れた彼女の姿を覚えている人も多いのではないかと思います。あの時、彼女は自分を責め、「自分のせいで仲間の人生を変えてしまった」と、一時は競技を続けることさえ迷うほどの深い絶望の中にいました。

しかし、彼女は再びオリンピックの舞台に戻ってきました。そして、かつて涙を流した「混合団体」という種目で、仲間と共に満面の笑みで銅メダルを手にする事ができたのです。高梨選手は、競技前に団体戦のメンバーと知った時は「正直、チーム戦となると、自分のジャンプができないということがずっと続いていたので、自信もなくて、コーチに相談させていただいた時もありました。」というくらい不安を感じていましたが、チームメートは「キーマンは沙羅さん。俺らで、沙羅さんのことを持ち上げないと」「前は、沙羅さんが一番つらかったの」と、高梨選手を支え、後押しして支えました。そんな、全員のくやしさをつらい思いを託してパフォーマンスした結果の輝かしい銅メダルとなったのです。

高梨選手は「苦しい時、支えてくれたのは仲間の言葉と、応援してくれる方々の声でした。一人では立ち上がれなかったけれど、誰かのために飛びたいと思った時、もう一度前を向くことができた」と、この四年間を振り返り、こう語っています。自分のために頑張ることには限界がありますが、支えてくれる誰かのために、あるいは共に歩む仲間のために頑張る力は、時に想像を絶する奇跡を起こすのだと思います。

東中の皆さんは、あと一か月で新しい環境にチャレンジします。その過程の中で、思い通りにいかないことがあるかもしれませんが。そんな時は「今苦しいのは、次に高く飛ぶための助走期間なんだ」と考えると、前向きになれるかもしれません。来年度に向けて、東中生は「感謝」と「可能性への挑戦」を大事にしながら大いに躍進し活躍してくれることと思います。